元の理～この世の摂理～

-作成途中-　©小林真

人間が生きる意味。それは人を助け又助けられ、遊び心の中に喜び勇む道,「陽気遊山」にある。この世のあらゆる全ては、陽気遊山の為に用意されていて、心のみが自由な存在である。心が自ら陽気遊山に向かう時、現実はすぐに変わり始める。この図表は、世の中の事象・現象を全て解き明かすものである。深く思案してみてほしい。

※「理」≒事実,要因

十柱の働きは、「表に現れる働き」主体(表7:陰3)と「陰の働き」主体(表3:陰7)のものが存在する。

物事の起点となり、まだ見えぬ遠い先を楽しみながら、見えない陰で困っている人の為に働く心。ほこりや汚れを洗い流す澄んだ水の心。求めず,冷静で,広大な海の心。落ち着かせる心。「心根」もまた見えない働き。"目は心の窓" 眼は心根の現れ。

見聞き、経験する事象,現象は、時代や人で変わってくる。大事なことはその事象,現象が、どういう理で現れたのか、そして"自分は"どういう理を尽くすのか、自ら思案し悟ることである。同じ物事でも見方が変われば、景色が変わる。全て心通りに映っていく。

物事の整理が付かない状態は、泥海のように混沌としていて面白くない。この世の元始まりも同様に混沌としていた。この図表を見て、この世が形成された一連の流れを思案し、どういう理合いを自らの心に治めていくかが大事である。これからは理合いを理解し、すっきりと心を澄ませることで、だんだんと陽気な道が開けてくる。

自ら勇んで通る道はやがて逞しい往還道へと続く。

くにとこたち不足時(をもたり/母 強い時)：熱中症、火事、火傷、猛暑、熱帯夜、火山噴火、砂漠化、高血圧、過緊張、不眠症 眼の身上 etc.

お蔭様の理。　心定めが全ての起点。　本心。

月　天　父　陰の働き

左親指　無意識領域。

起点となって見えない陰で働き、低い方へ向かう、落ち着いた水の心

左の役割　表3：陰7

①くにとこたち

体内：眼、潤い、心根、感覚神経、睡眠、副交感神経、体の70%水分
世界：水、雨、海、根、夜、地下水、地球の70%水分、宇宙の70%暗黒エネルギー

朝起き 陰徳の心

水のように冷静になって思い切り、物事が新たな楽しみへ転じ変わる。

出直し(死)とは、着れなくなった衣服を脱ぎ捨てるのと同じこと。

天とは、普段見えない陰の働き。心もまた目に見えない陰の働き。天の理とは、見えない陰の働きの理のことであり、心の理のことである。

自分をまとう欲(泥)を捨ていんねんを切り替える。

月　男　陰の働き

陰で周りを引き立て支え、大事な所で勢いよくつっぱる心

表3：陰7

⑥月よみ

体内：骨、男一の道具
世界：つっぱり支える働き、立てる働き、柱、立木、月、月の引力、潮の満ち引き、月経を促す

自分ではなく、周りを立てる心。普段は見えない陰で下から支え、大事な所で俊敏に反応しつっぱって支える。局面を見極める洞察力と仲間(他の骨)との密接な連携が欠かせない。

足の役割。　頭低く、影で下の方から支える土台の働き。

ここぞという所で俊敏に硬化する働き。

物事が治まる理。

天　陰の働き

仕切る働き。瞼を閉じて冷静に決心し、これから先を楽しむ心

表3：陰7

⑩たいしよく天

体内：出産時に親子の胎縁（臍の緒）を切り、出直し時に息を引き取る働き。散髪、爪切り
世界：切ること一切、細胞分裂、食物の吸収

十分に満ちた理

過剰（かしこね 不足）：
人間関係や交流を断ち切りすぎる状態。孤独、静寂、個人主義、そっけなさ、寂しさ、閉塞感

不足（かしこね 過剰）：
執着や守りの意識が強くなり、割り切れず思い切れず、先へ進めない状態。瞼を閉じ切れない状態。踏み切れない、けじめがない。切れ味が悪い、先案じ、不安、心配、保守的

北
0時
冬至
夜

北西
21時
立冬

北東
3時
立春

婦
④いざなみ
女,苗代(環境)の働き
素直に受け入れ育む心

仕合わせ

陽気づくめの心

夫
③いざなぎ
男,種(元)の働き
まっすぐな堪能の心

みにつく

西 18時 秋分 夕
夕づとめ

朝 春分 6時 東
朝づとめ

立秋
15時
南西

立夏
9時
南東

昼
夏至
12時
南

陰の働き

苦がなくなる。

時旬を見定め、陰の働きや隠れた長所を根気よく引き出す実りの心

表3：陰7

⑨をふとのべ

体内：出産時に子を引き出す働き、身長,爪,髪の成長、思い出す,発明,閃き
世界：引き出し一切、教育、引力、動植物の成長

過剰（くもよみ 不足）：
不要なものや引き出さなくていいものまで引き出してしまう状態。

-引き出し 3割の加減-

不足（くもよみ 過剰）：
短所など表面的な所が目について、隠れた長所や本質に気付けず引き出せない状態。他人に対してなら見下す心（≒優越感）,自分に対してなら過度にへりくだる心（≒劣等感）

表に現れる働き

必要不要を嗅ぎ分け、味わい咀嚼して迎え入れ、残留物は流す循環・順応の心

表7：陰3

腹七分目

⑦くもよみ

体内：嗅覚、味覚、解毒、咀嚼、飲み込み、消化、吸収、排泄。理解、記憶、(不要な情報を)忘れる
世界：水気循環, 溶解(分解,酵素)→蒸発(吸収,分離)→気体→雲(凝固,老廃物)→降雨,降雪(排泄)
お金やモノの循環。

過剰（をふとのべ 不足）：
物事を強引に受け入れ、闇雲に流れてしまう状態。暴飲暴食・下痢状態。咀嚼せず、味わわず、消化せず、吸収できず。物忘れの傾向。

不足（をふとのべ 過剰）：
必要なものを柔軟に取り入れず、又,それ以外のものを手放さない状態。偏食,拒食or便秘状態。過去や現状に執着し、老廃物を流せない状態。嫌な事が頭に浮かび、忘れられない傾向

→過剰＆不足：物事が身に付かず,朝を迎えられない。新たな清々しい空気、新鮮な景色を迎えられない、無理な辛抱や我慢

柔軟に流れに合わせて。　苦(≒雲)のない循環はない。

地

流れを生み、切り替える働き。八方に言って勇ませ、聞いて楽しむ心

表に現れる働き　表7：陰3

⑧かしこね

体内：息 ,呼吸、鼻で吸い(加温,加湿清浄) 口で吐く(冷暖房,加湿除湿)声、言葉、耳、聴覚
世界：風,音,空気,大気

ぬくもりが陰の働きを引き出す、実りの働き。月は太陽に照らし出され、その美しさが引き出される。

聞き上手が話し上手に。　勇み心を八方へ。

過剰（たいしよく天 不足）：
受ける側にとって、風がしつこい状態。暴風・台風状態。両者の声や思いが通らない。受ける側は身動きが取れず、聞き分け、嗅ぎ分けできない。肥（声）をやり過ぎ、乾いて枯れた状態。

不足（たいしよく天 過剰）：
受ける側にとって、風通しが悪い状態。言葉足らずで心がじめじめと腐る状態。湿気、陰気臭い、しけた顔、ため息、息苦しい、虫がわく、カビ。また過度に閉め切る為に鳴る、金切声(耳障り)の状態。陰口、愚痴、愛想尽かし、切り口上、捨て言葉、誹謗中傷

言葉は命

優しく心地のいい風、言葉が生まれる。

挨拶は風の働き。自ら吹かそう。　声は肥。相手の状態に合わせて柔軟にかける言葉は変えよう。

日　地　母

陰の働きに気付いて有難く思い、こみ上げてくる明るいぬくみの心

表7：陰3　右の役割

②をもたり

体内：体温、活力、感情、交換神経、運動神経
世界：火、太陽、熱、光、昼

右親指　意識領域。

感謝を言動へ、ひのきしん。

表に現れる働き

物事が当たり前に思えてしまう状態

をもたり不足時(くにとこたち 強い時)：冷え性、悪寒、低血圧、貧血、極寒、洪水、津波etc.

陰の働きを有難いと思えた理。そこから湧き上がるぬくみの心。温かい優しさで包み、周りを明るく喜ばせる心。見える働き。大きな連鎖を生み、物事が始まり動き出す原動力となる働き。

日　女

物事を慌てず柔軟に受け止め子ども心でぎゅっと繋ぐ心

表7：陰3　表に現れる働き

⑤くにさづち

体内：皮膚、筋原繊維、血管系、リンパ管系、女一の道具
世界：柔軟な繋ぎの働き、縁、出会い

温かい心が消化・吸収・排泄を促し、物事の循環を生み出す。

人を助ける処に、自分が助かる。相手とともに、皆で助かっていく道。

手の働き。繋いでぎゅっと握る。あれこれ考えず阿呆になる。物事の繋がりを生む理。

見聞き、経験する出来事を普く喜び、つなげる心。不平不満は繋がらない。見聞き,経験する中に自らのいんねん、歩むべき道が見える為、喜べる。喜べるから、新しい繋がりが生まれる。

心のほこり(※毎日払い,人にほこりを積まさぬよう)
おしい、ほしい、かわい、よく、こうまん
にくい、うらみ、はらだち、嘘,追従(心言動の一致)

ヒント！

【二つ一つの理 と 7分3分の均衡】
①くにとこたち：②をもたり=7:3
(愛や感動を覚えたとき,体温37°C)
③いざなぎ：④いざなみ=1:1
(夫婦揃って、二つで一つ)
⑤くにさづち:⑥月よみ=7:3
(7割は柔軟に繋ぎ3割つっぱる)
⑦くもよみ：⑨をふとのべ=7:3
(腹七分目が生きる力を引き出す)
⑧かしこね：⑩たいしよく天=7:3
(7分呼吸続き、3分息切るの連続)

PDF:https://karakosha.net/youkiyusan